

# インフォメーション・コーナー

## 会 告

農業農村工学会第 41 回通常総会開催について .....	88
シンポジウム「大規模国営事業の果たした役割・技術と今後の展望（仮称）」の開催について  .....	88
平成 20 年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について .....	89
平成 20 年度「研究グループ」の助成金募集について .....	89
平成 20 年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について .....	90
学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!! .....	90
農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてお願い .....	91
「農業農村工学会学術基金」の募金について .....	91
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のごお願いと国際ジャーナル 「Paddy and Water Environment」について .....	92
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のごお願いと 編集事務局（投稿先）のお知らせ .....	92
「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！ .....	93
身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!! 「水土の知（農業農村工学会誌）」 平成 21 春期の表紙写真の募集 .....	94
支部講演会の投稿票について .....	94
第 65 回京都支部研究発表会の開催について（第 1 報）  .....	94
第 63 回中国四国支部講演会の開催について（第 1 報）  .....	95
平成 20 年度九州支部第 89 回講演会・シンポジウム・第 31 回講習会・現地見学会について  .....	95
第 57 回理論応用力学講演会開催について .....	96
ICID 第 3 回アフリカ地域会議における発表論文の募集について .....	96
<b>学会記事</b> .....	98

### 第 76 巻第 6 号予定

**展望**：東北の農業農村の歴史と今後の展望：小澤與宏

**小特集**：東北における水利開発・土地改良の進展の歴史

不毛の三本木原台地を美田美畑に変えた先人たちの偉業 - 人工河川「稻生川」の歴史 - : 高野春男

水陸万頃の大池～胆沢平野における水と土の歩み：芦 長喜他

八郎瀧干拓事業の周辺地域への波及効果の検証について：瀨田文治他

仙台藩祖伊達政宗が築いた岩手山大堰：大友堅一郎

その先の水を求めて懸崖絶壁に開削した天保堰：河村 勉

福島県の土地改良における先人達の偉業：廣比雄一

### 技術リポート

北海道支部：別海地区における浄化型排水路の水質浄化機能：羽生哲也他

東北支部：ため池整備における渡り鳥等に配慮した施工事例：佐藤弘巳

関東支部：広域営農団地農道整備事業における PC コンボ橋の施工：立石雄三

京都支部：環境に配慮した農道づくりへの取組み（実践に向けて）：日根直哉

中国四国支部：農業用揚水機場建屋におけるアスベスト除去工事：川崎陽通

九州支部：畑地灌漑導入の効果：友森厚子

**小講座**：瀬・淵と砂洲・砂礫堆：永吉武志

**私のビジョン**：闘う“モデル農村”とともに水田農業の可能性をもとめて：近藤 正

## 農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

のマークは、技術者継続教育認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成20年5月 23日	行事企画委員会	シンポジウム「大規模国営事業の果たした役割・技術と今後の展望(仮称)」 	大規模国営事業の果たした役割・技術と今後の展望	東京都	76巻5号
平成20年8月 26~28日	大会運営委員会	平成20年度農業農村工学会大会講演会 		秋田市	75巻12号 76巻13号
平成20年9月24日 ~26日のうち一日	資源循環研究部会	平成20年度資源循環研究部会研究発表会 	農村における水やバイオマス等資源の利活用および循環に係る調査・研究の最新成果	東京都	76巻3号
平成20年10月 21,22日	中国四国支部	第63回講演会 		広島市	76巻5号
平成20年10月 30,31日	九州支部	第89回講演会・シンポジウム 第31回講習会・現地見学会 		沖縄市	76巻5号
平成20年11月 6,7日	京都支部	第65回研究発表会 		福井市	76巻5号

### 農業農村工学会学会第41回通常総会開催について

社団法人農業農村工学会定款第27条により、第41回通常総会を下記により開催いたしますので、代議員にはご出席くださるようご案内申し上げます。なお、定款第27条4項により、正会員は総会に出席して、議長の了解を得て意見を述べることができます。

議案の詳細につきましては、学会ホームページに掲載しています。

#### 記

1. 日時 平成20年5月28日(水) 14:00~15:00
2. 場所 日本赤十字社ビル1階101会議室
3. 議案
  1. 平成19年度事業報告
  2. 平成19年度収支決算
  3. 平成20年度事業計画
  4. 平成20年度収支予算
  5. 名誉会員の推挙
  6. 第21期役員を選任

### シンポジウム「大規模国営事業の果たした役割・技術と今後の展望(仮称)」の開催について

技術者継続教育プログラム認定申請中



#### 趣 旨

現在、「国から地方へ、官から民間へ」という構造改革のもと、地方分権の議論がなされています。地方分権改革推進委員会においては、地方農政局や国営事業の存在意義が問われています。農業農村工学会は、これまで食料の自給率向上や国土の保全、さらに地域の活性化に資する多くの技術開発による社会貢献を果たしてきたと考えております。そこで、これまでの技術開発の原動力となった大規模な国営事業が国民社会に果たしてきた役割やそこで生まれてきた技術開発の成果を検証すると共に、社会経済情勢の大きく変わる現状にあって、学会名称を変更した意義を踏まえた今後の農業農村工学会の果たすべき役割について展望するため、産学官の関係者が集う緊急のシンポジウムとして企画いたしました。大学、研究機関、行政など技術開発に携わってきた研究者や技術者の結集と活発な意見交換を期待します。

#### 開催内容

1. 主催 (社)農業農村工学会 行事企画委員会  
(独)農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所
2. 日時 平成20年5月23日(金)10:30~15:30

3. 場所 農業土木会館6階大会議室

4. 参加費 無料

#### 5. プログラム(案)

10:30~10:40 開会挨拶

農業農村工学会 行事企画委員長 元杉 昭男

10:40~11:10 話題提供1「大規模国営事業の果たした役割・技術と今後の展望(仮題)」

第21代農業土木学会会長 三野 徹

11:10~11:40 話題提供2「大規模農業水利システムの機能・役割と今後の展望(仮題)」

筑後川の恵み

第19代農業土木学会会長 黒田 正治

11:40~12:10 話題提供3「(未定)」

第22代農業土木学会会長 田中 忠次  
(昼食)

13:10~13:40 話題提供4「国営事業の意義と研究機関の果たすべき役割(仮題)」

農村工学研究所技術移転センター長 小泉 健

13:40~14:10 話題提供5「農業水利施設のマネジメント技術開発の展開方向(仮題)」

農村工学研究所施設資源部上席研究員 中 達雄  
 14:10~15:20 パネルディスカッション  
 コーディネータ 農業農村工学会会長 青山 成康  
 パネリスト 話題提供者  
 15:20~15:30 閉会挨拶

農村工学研究所所長 小前 隆美

## 6. 参加申込

申込用紙(学会ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp/>)の各種行事申込書)に必要な事項をご記入のうえ、E-mail (tkiku@jsidre.or.jp) または FAX (03 3435 8494) でお送り下さい。

## 平成 20 年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について

### 学術基金運営委員会

農業農村工学会では、平成 3 年度に学術基金制度を設け、毎年援助事業を実施してまいりました。

平成 20 年度は、規程第 4 条(1)の「特定の分野および学術的分野に関する調査・研究の推進」、(2)の「農業農村工学の国際交流の促進」、(3)の「若手研究者の育成」の援助を実施いたします。

援助を希望される方は、学会ホームページで申請書をダウンロードして、E-mail で学会事務局までお申し込み下さい。

#### 記

#### 1. 援助の対象

農業農村工学会の会員(学生会員を含む)、または会員により構成されるグループ

#### 2. 援助方針

- (1) 農業農村工学に関する特定の分野および学術的分野の調査・研究の推進に寄与と思われる研究について援助する。
- (2) 平成 20 年度中(平成 20 年 4 月から 21 年 3 月)に海外で開催される国際学術会議への出席費用の一部を援

助する。なお、自ら研究発表等を行う若手会員とする。

ただし、発表が国際会議の主催者から受理されていなくても、申請は受け付ける。

この場合は受理を条件として援助の可否について決定を行う。

- (3) 若手研究者の研究に対して援助する。

#### 3. 1 件当たりの援助金の目安

1 件 15 万円程度を限度とする。

#### 4. 申請締切 平成 20 年 7 月 31 日(木)

#### 5. 報告の義務

援助を受けた者は、調査・研究、または会議の報告書を提出し、その原稿は学会誌に掲載される。

#### 6. 申込・問合せ

〒105 0004

東京都港区新橋 5 34 4 農業土木会館 3 F

農業農村工学会 学術基金運営委員会

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E-mail: [suido@jsidre.or.jp](mailto:suido@jsidre.or.jp)

## 平成 20 年度「研究グループ」の助成金募集について

### 研究委員会

「研究グループ」の育成を目的とし、下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は原則 1 件 20 万円程度 3 件以内です。

本年度の申請締切は、平成 20 年 6 月 30 日(月)ですので、助成金を希望される方は期限までに、所定の様式(学会 HP 参照)で研究委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

#### 「研究グループ」への助成金取扱い内規

1. 申請: 学生会員は所定の申請用紙に必要な事項を記入の上、「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定: 研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」に

つき、その可否を認定し、学会長に報告する。

3. 配布: 研究委員会は認定した「研究グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として 1 年とする。
4. 助成対象: 申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。
  - (イ) 具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分野が現在立ち遅れており、それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。
  - (ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であること。
  - (ハ) 「研究グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員は原則として 3 名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。

(二)「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締め切り日に40歳未満であること。

5. 活動報告：助成金を配布された「研究グループ」は助成金配布後1年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意し作成し、研究委員会に提出すること。

注1 研究経過報告書の執筆にあたり、農業農村工学会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷り上がり1~2ページに収まるようにまとめること。

注2)「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。

## 平成20年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について

### 研究委員会戦略的研究推進小委員会

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は60万円程度(平成20年度、原則1件20万円以内)です。

本年度の申請締切は平成20年9月19日(金)です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式(末尾参照)で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

#### 「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容(申請の意義、準備の状況、将来の展望など)を検討して、助成金の配布グループと金額を決定します。なお、この決定内容は学会長に報告します。
3. 配布：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグ

ループを優先します。

4. 助成対象：申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。
  - (イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。
  - (ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員(本学会員以外も可)は原則として3名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。
5. 活動報告：助成金を配布された「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

#### 「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：平成20年9月19日

申込先：戦略的研究推進小委員会委員長宛

E-mail：tkiku@jsidre.or.jp

#### 必要記載事項：

- (1) WG名(または部会名)
- (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属
- (4) 研究テーマ名(仮)
- (5) 研究の目的と内容(500字程度)
- (6) 研究資金申請応募先(予定)

## 学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!

### 行事企画委員会

### 技術者継続教育機構通信教育部会

通信教育を平成18年11月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間10CPD、また、通信教育で最大年間18CPD取得できますので、是非、通信教育にご参加下さい。

#### 1. 参加会員の募集

参加をご希望の学会会員で、かつCPD機構会員の方は、農業農村工学会のホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)にある

参加申込書に必要事項を記載してメール(E-mail: cpd@cpd.jsidre.or.jp)あるいはFAX(03 5777 2099)でお送り下さい。

なお、この機会に農業農村工学会、継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>)に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。

#### 2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

### 3. 事務局

機構の運営委員会内部に設置する部会および機構事務局が担当します。(☎03 5777 2098)

### 4. 内 容

問題は3カ月前の学会誌の報文等から、機構通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回10問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメールで機構に返信していただきます。

採点の結果、7割以上正解で1CPD、満点で1.5CPDが取得でき、機構会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

### 5. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

## 農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

### 災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーを希望される方は事前に登録の申請をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年毎更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以

下のとおりです。

調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。

派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。

調査団の派遣期間は、原則2~3日とする。

調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する(年度予算限度額300万円)。

調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03 3435 8494、E-mail saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)よりダウンロードして下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取り扱います。

## 「農業農村工学会学術基金」の募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成19年度までに46件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名(社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140 2 54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

## 国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2008年6月に Vol 6, No 2 が発刊されます。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気

象環境)

- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
  - ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)
- 水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として、皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、年4回無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社 (ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000 円/年/4 冊 (送料等学会負担)

学生会員 (院生含む) 8,500 円/年/4 冊 (送料等学会負担)

申込先: 農業農村工学会編集出版部 馬目宛

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込は、学会ホームページ <http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm> の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ、メールまたは FAX でお申し込みいただけます。

## 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2008年6月に Vol 6, No 2 が発刊されます。

わが国においても学術誌の評価に、SCI (Science Citation Index) の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界 13 カ国から Editor (14 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer Verlag 社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI 獲得のために年 4 回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りますが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

**投稿先:** PWE Chief Managing Editor, Dr. Soon-Jin HWANG  
International Society of Paddy and Water Environment  
Engineering (PAWEES)

KOFST - Main Building #205

635-4 Yeoksam-Dong, Kangnam-Gu, Seoul 135-703, Korea.

Tel: +82 2 562 3627, 562 3613 Fax: +82 2 565 6821

Email: [sjhwang@konkuk.ac.kr](mailto:sjhwang@konkuk.ac.kr), [pawees@ksae.re.kr](mailto:pawees@ksae.re.kr) (will be made shortly)

(During Jan.2006 to Dec.2008)

**編集方針:** 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

**編集体制** (2006.1.1~2008.12.31)

• Editor in Chief: Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)

Former Professor, Kyushu University, Japan

• Editors 13 カ国から 14 名

• Editing Board 32 名

• Managing Editors

Chief Managing Editor: Dr. Soon-Jin HWANG

Department of Environmental Science, Konkuk Uni-

versity, Seoul, Korea  
 Dr. Yutaka MATSUNO  
 Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan  
 Prof. Dr. Masaru MIZOGUCHI  
 Department of Global Agricultural Science, University  
 of Tokyo, Tokyo, Japan  
 Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE  
 Research Institute for Humanity and Nature (RIHN)  
 Kyoto, Japan

Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG  
 Department of Bioenvironmental System Engineering,  
 National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of  
 China

出版社：Springer Verlag 社（ドイツ）  
 投稿資格：筆者全員が国際学会員であること。  
 投稿要領等：http://www.jsidre.or.jp に詳細を記載していま  
 す。

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農  
 業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投  
 稿下さい。

学会誌 76, 77 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 A4 判 (1,500 字以内)	原 稿 締 切 刷り上げ (4 ページ厳守)
76 巻 6 号 大会関連	公募なし	
7 号 耕作放棄地の解消と再発防止（仮）	公募終了	
8 号 農業農村整備事業における環境配慮の取組み（仮）	公募終了	
9 号 電磁波計測技術の農業農村工学分野への活用（仮）	公募終了	平成 20 年 5 月 15 日
10 号 北海道における水田の再編整備と農業生産の組織化（仮）	公募なし	
11 号 地球温暖化防止と農業農村工学技術（仮）	公募終了	平成 20 年 6 月 13 日
12 号 限界集落の現状と課題（仮）	平成 20 年 5 月 23 日	平成 20 年 7 月 15 日
77 巻 1 号 創立 80 周年を迎えるにあたって	公募なし	
2 号 農業農村整備技術の継承と技術者育成（仮）	平成 20 年 7 月 25 日	平成 20 年 9 月 12 日
3 号 農業農村整備事業の効果・効用（仮）	平成 20 年 8 月 25 日	平成 20 年 10 月 15 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷り上げ 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4 (社) 農業農村工学会 学会誌編集委員会あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494 E mail: henshu@jsidre.or.jp

「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするのと同時に、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

「オフィス便り」は、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・

「技術力の向上」・「技術者倫理」など。

「キャンパス便り」は、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿下さい。

原稿の長さは、刷り上がり 1 ページ (1,800 字程度) で、写真を 1~2 枚程度入れて下さい。

「私の薦める本」は、原稿の長さが写真・体裁等含む刷り上がり 1 ページ以内 (1,200 字) で、原稿には表紙の写真を含めて下さい。

76 巻 12 号テーマ「限界集落の現状と課題」(仮)

近年の過疎化・高齢化の進行により集落の共同体としての機

能低下が見られる中で、特に、その機能維持が限界に達し、集

落の存続が危ぶまれるような状態 - いわゆる「限界集落」については、農地・山林などの地域資源管理の問題が深刻化しています。

平成19年10月29日開催の第26回中山間地域等総合対策検討会資料「中山間地域における喫緊の課題をめぐる情勢と対策の方向について」によれば、農地・山林などの管理を行ってきた集落が消滅すれば、農地の5割弱、用排水路の4割強、森林の4割弱が放置されるなど、農山村が有する国土保全、

洪水防止機能が著しく衰退し、土砂災害や洪水災害など発生する頻度が高くなるとともに、耕作放棄地の増大により、食料の自給に悪影響を及ぼすことになり、国民全体の生命・財産、豊かな暮らしが脅かされるおそれがあると懸念されています。

そこで、深刻化しつつある「限界集落」について、農業農村工学分野の視点からその現状と課題(対策などの取組みを含む)をテーマとした報文特集を企画することとし、かかるテーマについての事例紹介、研究などを広く募集します。

## 身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!! 「水土の知(農業農村工学会誌)」平成21年春季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では、平成21年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。

### 趣 旨

わが国は急峻な地形であることや水田稲作が発達したことに起因して、水を制する、水を利用するための土木的施設が数多く造られてきました。それら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、今も過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えています。また、それぞれの機能を発揮するとともに、年月を重ねることでその地域の自然や文化にけい込み、その景観を構成する要素として不可欠なものもあります。それが国家規模のプロジェクトで建設されたものでなくとも、私たちが調査・研究・事業の対象としている農村地域にも、規模の違いこそあれ立派に機能美と景観美を放つものが存在します。

農業・農村の現場で活躍される皆さま、日頃何気なく見過ごしているかもしれない水利遺構とそれを含む景観の美しさを再評価いただいて、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録いただき、広く学会員にご紹介下さい。特に今回は、「春」が感じられる「水利遺構」の写真を募集いたします。

### 記

#### 1. テーマ

「水利遺構：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」  
(昨年と同様)

#### 2. 対象巻号

学会誌第77巻(平成21年1~12月号)のうち、特に春季のもの

#### 3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで(デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFF モードに設定)撮影してください。入選の際にはデジタルデータをお送りいただく場合があります。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

#### 4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

#### 5. 締 切 平成20年6月30日(春季の写真)

#### 6. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意ください。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれる(花などの情緒物に埋没しない)、デジタル画像の場合で解像度が不十分で表紙に拡大してドット崩れしない、ことが採用の条件となります。

## 支部講演会の投稿票について

支部講演会への投稿要領のうち、原稿や投稿票の作り方の統一された部分を一括して学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)に掲載しますので、支部講演発表希望者各位は、投稿票と同じ項目のファイルの入ったフロッピーディスクを各

支部講演会担当者宛ご提出下さい。

ただし、各支部の投稿規定等別途指示がある場合は、各支部の投稿規定に従って下さい。

## 第65回京都支部研究発表会の開催について(第1報)

技術者継続教育プログラム認定申請中



### 1. 研究発表会

日時：平成20年11月6日(木)10:00~17:00

場所：福井県民ホール(福井市手寄141)

福井市地域交流プラザ(福井市手寄141)

### 2. 情報交換会

日時：平成20年11月6日(木)18:00~20:00

3. 現地研修会

日時：平成 20 年 11 月 7 日（金）9：00～16：00

4. 研究発表申込

研究発表者は、投稿原稿に先立ち 6 月末日までに、表題（仮題でも可）、発表者名、所属、年齢（研究奨励賞対象者のみ）、連名者名、所属、年齢（研究奨励賞対象者のみ）、希望発表部門（水理、水文・気象、土壌物理、土質力学、応用力学、材料・施工、灌漑排水、農地造成・整備・保全、農村計画、環境保全、生態環境、地震・その他）、発表者の連絡先電話番号、発表者の E メールアドレス（利用可能な場合）を記入した申込書（様式任意）を、下記の発表申込先・新潟大学吉川宛に E メール（件名を「発表申込」として下さい）あるいは CD（txt ファイル）で郵送下さい。ただし、発表者は学会員に限らせていただきます。

なお、京都支部では、大学、短期大学、研究機関に所属する発表時 35 歳以下の会員（学生会員も含む）によって口頭発表された優秀な研究に対し、研究奨励賞を授与しています。同賞の受賞基準に該当する方（35 歳の連名者を含む）は、必ず申込

書に年齢を記入して下さい。

投稿原稿に関する詳細な要領は 6 月号に掲載します。

5. 発表申込先

〒950 2181 新潟市西区五十嵐 2 の町 8050 番地

新潟大学農学部 吉川 夏樹

TEL&FAX 025 262 6653

E-mail：natsuky@agr.niigata-u.ac.jp

6. 申込期限

(1) 発表申込 平成 20 年 6 月末日

(2) 原稿締切 平成 20 年 7 月末日

(3) 参加申込 平成 20 年 8 月末日

7. 問合せ先

福井県農林水産部農村振興課内

第 65 回農業農村工学会京都支部研究発表会

運営委員会事務局 担当 木戸、印牧

☎0776 20 0452（直通） FAX 0776 20 0656

E-mail：t-kanemaki-ou@pref.fukui.lg.jp

第 63 回中国四国支部講演会の開催について（第 1 報）

技術者継続教育認定プログラム



1. 講演会

日時：平成 20 年 10 月 21 日（火）

会場：広島県民文化ホール（鯉城会館）

〒730 - 0511

広島県広島市中区大手町 1 5 3

☎082 245 2311 FAX 082 245 2315

2. 情報交換会

日時：平成 20 年 10 月 21 日（火）

会場：広島県民文化ホール（鯉城会館）

3. 現地研修会

日時：平成 20 年 10 月 22 日（水）

コース：未定

4. 問合せ先（講演会参加窓口と原稿提出窓口を別にしていますのでご注意ください）

(1) 講演会発表原稿提出窓口および問合せ先

農業農村工学会中国四国支部事務局 石井将幸

〒690 - 8504 島根県松江市西川津町 1060

島根大学生物資源科学部

TEL&FAX 0852 32 6556

E-mail：shibukouenkai@zoukou.life.shimane-u.ac.jp

(2) 講演会参加申込窓口および問合せ先

広島県農林水産局農林整備部農業基盤課

上田、友瀧、久河

〒730 8511

広島県広島市中区基町 10 52

☎082 513 3650 FAX 082 228 1301

E-mail：nounouki@pref.hiroshima.lg.jp

5. 詳細 本誌 7 月号に掲載予定です。

平成 20 年度九州支部第 89 回講演会・シンポジウム・第 31 回講習会・現地見学会について

技術者継続教育プログラム認定申請中



九州支部では、昨年度から、これまで別々に開催していた講演会・シンポジウムと 講習会・研修会を統合し、下記のとおり開催することにしました。

皆様のご参加をお待ちしております。

1. 演 題

講演会...農業農村工学関係の最先端の研究 施工事例等の発表

シンポジウム...未定

講習会...未定

現地見学会...未定

2. 日 時 平成 20 年 10 月 30 日（木）～10 月 31 日（金）

3. 場 所（予定）

那覇市 沖縄ハーバービューホテルクラウンプラザ

〒900 0021 沖縄県那覇市泉崎 2 46

☎098 853 2111

4. 問合せ先

沖縄県農林水産部村づくり計画課

〒900 8570 沖縄県那覇市泉崎 1 2 2

☎098 866 2263 FAX 098 869 0557

## 第57回理論応用力学講演会開催について

1. **主催** 日本学術会議 機械工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 IUTAM 分科会
2. **共催** 農業農村工学会ほか 20 学協会
3. **開催日** 2008 年 6 月 10 日(火)～12 日(木)
4. **会場** 日本学術会議(東京都港区六本木 7 22 34)
5. **趣旨**  
「理論応用力学講演会」は力学に関する最も権威ある世界の組織 IUTAM の開催する国際会議の国内版として開催されてきました。力学が細分化する中で、各々の分野の先端的研究を集めて、幅広い力学研究の動向を確かめ合うことが本講演会の目的です。本年度も、多くの力学の共通語を中心としたオーガナイズドセッションとパネルディスカッションを組み、ご要望にお応えしたいと存じます。皆様の多数のご参加をお待ちしております。
6. **ホームページ**  
本講演会に関する詳細・最新情報は、ホームページ <http://www.jiban.or.jp/nctam/> に掲載されています。
7. **参加申込方法** 会期中、会場にて参加申込を受け付けます。直接ご来場下さい。
8. **参加費** 無料
9. **講演論文集**  
当日会場にて有料(8,000 円)にて頒布いたします。講演会

に参加なさらない方で講演論文集購入をご希望の方は、「第57回理論応用力学講演会 講演論文集購入希望」と明記のうえ、代金(8,500 円)を添えて現金書留にて幹事学会事務局宛に事前にお申し込み下さい。講演会終了後に送本いたします。

### 9. 英文論文

著者の希望により発表論文をあらためて英文で投稿されると、査読による審査を経て後日発行する英文 Proceedings に収録されます。寄稿申込は、メールと郵送によって受け付けます。英文論文寄稿料として 10,000 円を申し受けます。寄稿申込み期日は 2008 年 6 月 27 日(金)まで、査読用原稿受付期日は 2008 年 7 月 25 日(金)です。詳細につきましては、本講演会ホームページにてご案内いたします。なお、英文論文集発刊は 2009 年 3 月を予定しており、英文論文は J-STAGE にも掲載されます。

### 10. 問合せ先

実行委員会 講演担当幹事 中村恭志(東工大)  
☎045 924 5548 FAX 045 924 5549

### 11. 幹事学会事務局

(社)地盤工学会(担当:戸塚・松本)  
〒112 0011 東京都文京区千石 4 38 2  
☎03 3946 8677 FAX 03 3946 8678  
E-mail: nctam@jiban.or.jp

## ICID 第3回アフリカ地域会議における発表論文の募集について

2009 年 10 月に、ナイジェリア・アブジャにおいて、国際かんがい排水委員会(ICID)第60回国際執行理事会の開催に合わせ、第3回アフリカ地域会議が開催されます。

日本 ICID 協会(以後「協会」)は、下記の要領に従い、上記会議における発表論文を募集いたします。投稿をご希望の方は、別記の連絡先までご連絡下さい。なお、ご投稿頂いた論文は、ICID 日本国内委員会の委員に査読して頂いた後に、ナイジェリア国内委員会(NINCID)事務局に提出します。

### 1. 会議開催予定

開催期間: 2009 年 10 月 11 日(日)～17 日(土)  
開催場所: ナイジェリア・アブジャ

### 2. 発表者募集の対象会議

ICID 第3回アフリカ地域会議

### 3. 募集テーマについて

#### 【全体テーマ】

The Role of Irrigation and Drainage in Food Security (食料安全保障におけるかんがい排水の役割)

Towards Attaining the Millennium Development Goals (MDGs) in Africa (アフリカにおけるミレニアム開発目標の

達成に向けて)

#### 【サブテーマ】

(1) Food Production and Income Generation through Irrigated Agriculture (かんがい農業を通じた食糧生産と収入の創出)

(2) The Role of Private Public Partnership in Irrigated Agriculture in Poverty Reduction (貧困軽減のためのかんがい農業における民間と行政のパートナーシップの役割)

(3) Performance Appraisal of Different Irrigation Systems towards Achieving Millennium Development Goals and the way forward (ミレニアム開発目標の達成と前進に向けた異なるかんがいシステムの実行評価)

(4) Irrigated Agriculture as a Strategy for Poverty Reduction in Developing Countries (途上国における貧困削減のための戦略としてのかんがい農業)

(5) Environmental Sustainability and Pursuit of the Millennium Development Goals (環境持続性とミレニアム開発目標の追求)

### 4. 参加表明・Abstract(要旨)の送付

会議参加のご意志をお伝え頂きますとともに 5 の要領に従って要旨を作成し、ご提出下さい。要旨を提出する前に日本国内委員による査読を受けますので 2008 年 6 月 16 日(月)までに 8 の連絡先に要旨をご提出下さい。

**5. 作成要領**

200~400 ワードの要旨を MS-Word で作成し 4 の期日までに E-mail でご提出下さい。ファイル名は著者名とし(例: 総研太郎の場合「souken.doc」), ページ冒頭に論文タイトル, 著者と共著者名, 所属, 各著者の住所, 電話番号, FAX 番号, E-mail アドレスを記載して下さい(連絡先著者を最初に記載して下さい)。

日本国内委員による査読の完了後, 協会事務局から NINCID 事務局に要旨を提出します。また, 査読の結果, 加筆・修正をお願いすることがございます。なお, NINCID の要旨受付締

切りは 2008 年 6 月 30 日(月)です。

**6. 今後の予定**

Full Paper の作成要領, 提出締切り等, 今後の予定については, 詳細な情報があり次第, 発表予定者にご連絡します。

**7. 参加登録費の補助**

協会は, 本会議の論文発表者に対し, 参加登録費を支弁します。なお, 参加登録費は例年 600~800 US\$ です。

**8. 論文送付先および連絡先**

〒151 0001 東京都港区虎ノ門 1 21 17 虎ノ門 NN ビル  
 日本 ICID 協会事務局 ((財) 日本水土総合研究所内)  
 ☎03 3502 1576 FAX 03 3502 1329

担当: 小林慶一郎 keiichirou-kobayashi@jiid.or.jp  
 小澤 洋 hiroshi-ozawa@jiid.or.jp

# 改訂 農村計画学

(社) 農業農村工学会

目 次

内 容 紹 介

まえがき	4 4 生活環境施設の整備
第 1 章 農村の特質と農村計画	4 5 生活環境施設と管理と整備効果
1.1 わが国の農村と計画の背景	<b>第 5 章 農村環境整備の保全と管理</b>
1.2 農村の特質	5.1 農村環境と資源の循環利用
1.3 農村計画の歴史	5.2 水環境の保全と創造
<b>第 2 章 農村計画の体系と構成</b>	5.3 地域生態系の保全と管理
2.1 農村計画の体系	5.4 景観の保全と形成
2.2 農村計画の構成と役割	5.5 環境管理の方法
2.3 計画の主体と住民参加	<b>第 6 章 中山間地域の活性化</b>
<b>第 3 章 土地利用計画</b>	6.1 中山間地域の現状と課題
3.1 わが国の土地利用の特徴と課題	6.2 中山間地域への新たな期待
3.2 土地利用計画の構成	6.3 中山間地域の活性化対策
3.3 農業生産環境の整備と土地利用	<b>第 7 章 西欧の農村計画</b>
3.4 農村集落の土地利用秩序の実現	7.1 オランダの空間整備計画
<b>第 4 章 生活環境整備</b>	7.2 ドイツの農村整備
4.1 生活環境整備の意義と必要性	7.3 フランスの土地利用計画
4.2 生活環境整備の考え方	7.4 イギリスの環境保全政策
4.3 生活環境整備の計画手法	7.5 EU の条件不利地域政策

A 5 判 284 ページ 定 価 4,200 円 (内税・送料学会負担) 会員特価 3,500 円 (内税・送料学会負担) [会員特価は, 個人会員による前金購入の場合のみ適用されます]	申込先 〒105 - 0004 港区新橋 5 - 34 - 4 (社) 農業農村工学会 TEL 03 3436 3418 FAX 03 3435 8494
--	---